

「企業的漁業と内水面漁業の安定的発展」の進捗状況

水産課・沿岸漁業振興課

○令和6年度末の進捗状況

① ICTを活用した資源管理の推進

- 魚種別分布予測システム※について、沖合底びき網漁業の主要な漁獲対象魚種15種を実装（目標達成）。

※魚種別分布予測システム

魚種毎の分布状況を予測し、漁業者へ迅速に情報提供することで、資源が減少している魚種の漁獲を避けたり、小型魚を避けて商品価値の高い大型魚を漁獲できる、効率的な操業を可能とするシステム。沖合底びき網漁業の主要な漁獲対象魚種で開発。

- 沖合底びき網漁業で同システムを活用して操業した結果、以下の効果を確認。

- 1航海あたりの漁場探索に要する時間は約16時間（55%）短縮
- 1航海あたりの漁獲金額は約89万円（11%）減少
- 分布予測システムの実装により、漁場探索時間は大きく短縮できたが、漁獲金額については漁獲対象種の漁場への来遊や今期は時化が多かったことが影響して減少した。

【1航海あたりの漁場探索に要する時間と漁獲金額】

	2018年	2024年
1航海あたりの探索時間（時間）	29.3	13.1（-16.2）
1航海あたりの漁獲金額（千円）	8,013	4,126（-887）

② 優良種苗の放流による資源の安定化

- 県内河川環境に適した地場産アユ種苗を県内河川に放流

- 令和5年に県内河川で採捕した稚アユを養成した親魚から採卵、種苗生産を行い、アユ種苗3万6千尾を放流（令和6年春）
- 次年度の親魚候補として、約3万6千尾のアユ種苗を継続飼育
- 産卵前親魚を約2万1千尾放流（令和6年秋）